

【静岡県の陸・海・空のネットワークの形成、美しい港湾景観の保全と創造（重点計画）】

指標① 地域経済を支える産業の活性化を促進するために、海上物流の効率化を図ることにより、港湾における取扱貨物量を増加させる。

（1）指標の考え方

清水港に点在する小型船係留箇所を集約することにより、大型船舶との輻輳による衝突リスクが回避され、新興津地区国際海上コンテナターミナル整備と相まって、海上物流の効率化が図られる。そのため、清水港における港湾取扱貨物量の向上を指標として設定した。

（2）指標の対象

清水港内における海上物流の効率化を目的とした小型船だまりの集約化のための港湾整備対象としている。

（3）指標の達成状況

平成29年度の実績値は1,615万トンであり、目標値1,611万トンを達成した。

計画の成果目標	定量的指標			
	H26当初	H29末最終目標	H29末最終実績	H29末達成率
清水港における年間取扱貨物量	1,497万トン	1,611万トン	1,615万トン	103.5%

指標② 港湾の整備に伴う浚渫土砂等について、最終処分の実施が困難となる状況を回避するために海面処分場の受入可能年数の延命化を図る。

(1) 指標の考え方

清水港では、船舶の安全航行を目的とした航路等の維持浚渫が必要であり、三保地区に外周護岸を建設し、浚渫土砂の処分場を確保している。一方、国が実施する富士見地区の航路増進事業において、大量の浚渫土砂が発生するが、三保地区の海面処分場で受入れると、今後、浚渫土の受入れ先がなくなるため、新たな処分場の確保が課題となっていた。このため、国・県が連携し、新興津地区の人工海浜(埋立場所)を整備することによる、既存の海面処分場の受入可能年数の延命化を評価指標として設定した。

(2) 指標の対象

清水港における親水性の向上と新たな海洋レクリエーション拠点・観光交流拠点の創出のための緑地整備を対象としている。

(3) 指標の達成状況

平成29年度末時点における受入れ可能年数は、5年であり、目標値の8年については達成できなかったが、清水港新興津地区において、海浜護岸の整備を行い、浚渫土砂の受入れを行っている。

計画の成果目標	定量的指標			
	H26当初	H29末最終目標	H29末最終実績	H29末達成率
清水港における海面処分場の受入可能年数	4年	8年	5年	25.0%

(4) 指標に関連する実施事例

1-A1-1, 2, 7 (防波堤, 物揚場整備、緑地・人工海浜)

港湾改修事業 (小型船だまり)、緑地等施設整備事業
(清水港 新興津地区)

●着手前



●対策後



(5) 今後の方針

引き続き、港湾施設の整備により、海上物流の効率化と新たな賑わいの創出に取り組んでいく。